

CPC 課題レポート

2023 年 5 月 31 日（水） 第 1396 回 CPC

92 番 岡野雄士

課題

1. 剖検が必要と考えられた根拠となった、臨床的な問題点を箇条書きで記しなさい。

- 死因についての精査
- 腎盂腎炎・その他の発熱の原因の有無や敗血症を疑う所見の有無についての精査
- 心肺機能低下の原因について（心筋梗塞などの疾患の有無）の精査

2. 病理解剖で認められた主要な所見を、箇条書きで記しなさい。

- 亜急性心筋梗塞・左心室側壁～下壁（315 g）
 - － 関連病変
 - * 冠動脈粥状硬化症
 - * 右室拡張・左心不全
- 大動脈弁狭窄症（大動脈弁周径 7 cm）
- 諸臓器の鬱血
 - － 肝臓: 667 g
 - － 脾臓: 86 g
 - － 肺: 224;270 g
 - － 腎臓: 100;63 g
- 動脈硬化性腎硬化症
- 総胆管結石+胆嚢結石
 - － 胆管ステント留置後約 1 ヶ月後の状態
- 気管支炎
 - － 両側肺下葉: 軽度+肺線維症
 - － 両側肺底部: 軽度
- 陳旧性脳梗塞（1120 g）
 - － 右大脳半球白質: 13 × 7 mm 大
 - － 左被殻外側: 4 × 2 mm 大
- 粥状動脈硬化症

3. 臨床的な問題点が病理解剖によりどのように解決したか、文章で説明しなさい。

死因については、心不全による循環不全が直接的な原因として考えられる。腎盂腎炎やその他の発熱の原因としては、下葉主体の気管支肺炎などが炎症所見として確認された。心肺機能の低下としては、特に心筋梗塞が疑われていたが、心内膜下梗塞の所見が得られた。

4. 本症例が死に至った病態について、自分が理解した内容を文章で説明しなさい。

粥状動脈硬化症を発端とし、冠動脈粥状硬化症を経て左心室側壁から下壁に至る心内膜下梗塞を来した。またそれに加えて、粥状動脈硬化症を発端とした大動脈弁狭窄症を来し、心房細動及び頻脈が心内膜下梗塞と共に心不全ないしは循環不全に寄与することで死に至った。